

市議会 自由民主党議員会

活動報告

会派視察報告

大牟田市・北九州市を視察

地域認知症ケアコミュニティー推進事業  
大牟田市

全国でも高齢化率の高い大牟田市では、「安心して徘徊できるまち」を目指している。そのための事業として、認知症コーデイネーター養成研修、もの忘れ検診・予防教室の開催、小中学校絵本教室、地域の見守り支援、徘徊模擬訓練などをやっている。



北九州市で

地域全体で認知症を支える仕組みを構築していく取り組み。また、北九州市は政令市の中で最も高齢化率が高く、単身世帯・認知症高齢者が増加傾向にある。自治会加入率も低下しており、孤独死が近年相次いで起こっている。このため、地域における支え合い

みは、全国でも類を見ない施策であり、大変参考となった。昨年度実施した「徘徊模擬訓練」には、全国各地から視察に来られるとのことであった。生活保護行政ののちをつなぐネットワーク

北九州市

北九州市では、生活保護費が、ここ数年毎年約50億円増加している。傾向として、高齢者世帯の割合が高く、医療扶助の割合が高い。そのため、昨年4月に本庁に医療介護担当を設置。今年4月には7つの福祉事務所に医療介護適正化担当を設置し、医療費の適正化を目指し体制の強化を図っている。

や助け合いなどの共助の仕組みの再構築を目指し、「いのちをつなぐネットワーク」事業を始めた。一人ひとりの「見守り体制」を築くこととし、

浦添市・宜野湾市を視察

地域通貨（察度）  
浦添市

厳しくなる地方自治体の財政状況下にあつて、市民・行政・事業所が持てる力を有効に提供し合う新しい「まちづくりのスタイル」を確立するため、特定の地域やコミュニティ内で流通させる制度である「察度」を視察した。

この「察度」は、カード1枚が100ポイントで100円、まちづくりに参加する個人・団体が登録し、地域コミュニティの活性化と「人・物・金」の循環を促進する画期的な取り組みである。

普天間基地の周辺対策  
宜野湾市

本市においては陸上自衛隊宇都宮駐屯地があり、騒音問題や安全対策についても共通する点があることから、普天間基地と嘉手納基地等を視察した。米軍基地は少しずつ返還されてはいるものの、米軍基地の国内での沖縄県の負担は多く、安全対策については一刻も早く対応しなければならぬ。また、基地の移

毎日誰かが単身の高齢者と話をする。そして異常が発生した場合、早急な対応を執る。北九州市の取り組みについては、大変参考になった。

設問題だけでなく、国防のあり方や日米同盟をはじめ日米地位協定の見直しも検討する必要がありと考える。

ごみのリサイクル  
（草木・空き缶の資源化）  
宜野湾市

草木のリサイクル事業は、収集作業をごみ集積所に出すのではなく、業者が各家庭を収集して回る取り組みである。空き缶の資源化は、収集委託業務にシルバー人材センターを活用し、高齢者の雇用安定にも寄与している。また、空き缶プレス機を市役所に設置し、空き缶500個につき500円分の図書券と交換している。



宜野湾市役所屋上から普天間基地を臨む

市民の声

市民の方から本紙をはじめとする当会の活動等に関する数多くのご意見・ご要望等が寄せられています。下記にその一部をご紹介します。男性 会派の広報誌の記事の中の「議会改革」を見たが、何点か疑問があるので電話した。一つは、議員の政務調査費だが、自民党は当初8万円と主張したのになぜ10万円にしたのか。他の会派に合わせることなく、過半数を得ているのだから、8万円で決められたのになぜ10万円に戻ってしまったのか。もう一つは、議員定数だが、政務調査費と同様、自民党は45人と決めたのに、なぜ47人に戻して決めたのか。民主党議員会をはじめ他の会派はなぜ議員自ら削減しようとならないのか。昨年の衆議院選挙で民主党に投票はしたが、政権を取ってみたら

全然あてにならない。市議会も同じなのか。自民党には、議員報酬や議員改革をはじめ、市の職員の定数削減など、もっと改革を進めていただきたい。男性 ごみ問題と分別には理解をする。しかしながら、食品・弁当関係の職業についているため、大量のごみが出て、それを洗う手間と分別する手間がかかり困っている。どうかかならないか。女性 家庭の中で、食用油の廃油や紙パック、ヨーグルトのパックなどをはじめ、細かいごみなどの分別が大変である。中には処理できない容器などもあり困っている。分別する意味は十分理解しますが、実行するのは大変である。男性 議員定数については、自民党主導で、さらに定数2割を削減し、それから報酬を減らしているのはどうか。そうすれば、民間給与も下がっている中で、職員給与の削減も言えるようになると思

う。部長20%、課長10%ぐらいしないと、民主党に反撃できないと思う。女性 広報誌を読ませていただきました。字が大きく写真もあって読みやすくできています。街中の道路や歩道をサイクリングが安心してできるようにしてもらえると、住みやすくなると思います。また、自転車が乗りやすくなれば、自転車を観光客にレンタルすることもできるようになると思います。自転車に黄ぶなのシールをはって、市街地の地図をつかって、街中を自転車で走ってもらえるようにすれば、観光の売りになるのではないのでしょうか。また、自民党議員会の皆様には、若者が出て帰ってくるようなふるさとづくりを考えてもらいたいと思います。女性 名古屋に嫁いだ娘がいる。名古屋では、ごみの分別にあたり、一般ごみとプラを違う袋を使用するようにしている。名古屋の方法

を参考にしているかどうか。効果が出ると思う。男性 近年走っている車の数が減ってきています。不況のためもあると思いますが、これから、人口も減っていくことを考えると、これ以上道路を拡張する必要はないと思います。その費用は、少子化対策や市の中心地を賑やかにするために使うべきです。私は自転車で町中に行きますが、止めるところに苦労します。所々に「一坪駐輪場」を作ってもらい、その地下も活用してください。外国の方々にも喜んで何度も来てもらえるような魅力のあるまちをつくってほしい。 「市民の声」に対して、電話の方の場合は、議員が対応しております。また、文書等の場合、状況に応じて回答しています。今後とも、多くのご意見・ご要望をお寄せいただきたいと思います。